

平成19年度第2回林野庁入札等監視委員会 審議概要

開催日及び場所	平成20年2月25日（月）農林水産省共用第B会議室		
委員	栗田 誠（千葉大学大学院教授） 井原 俊一（林政ジャーナリスト） 志賀 和人（筑波大学大学院准教授）		
審議対象期間	平成19年10月1日～平成19年12月31日		
抽出案件	総件数 11件		
抽出案件内訳	【工事】	【物品・役務】	(備考)
(一般競争)	－ 件	4 件	
(指名競争)	－ 件	－ 件	
(随意契約)	－ 件	7 件	
(企画競争・公募)	－ 件	7 件	
(その他)	－ 件	－ 件	
委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問		回答等
	別添のとおり		別添のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容 〔これらに対し所属局長が講じた措置内容〕	なし 〔 〕		

事務局：林野庁林政部林政課

平成19年度第2回林野庁入札等監視委員会

	意見・質問	回 答
<p>委員からの意見・質問、それに対する回答等</p>	<p>〔抽出番号1：治山事業における木材利用推進に関する調査〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑資源機構入札談合事件に関わっていた業者については、本件選定過程において既に把握されていたと思われるが、選定においては、その点は考慮されたのか。 ・諸経費や技術経費の率が高いのではないのか。 <p>・企画書選定要領の採点項目に、森林土木に関する実績があるが、事業実施体を絞り込んでいることはないのか。</p> <p>〔抽出番号2：森林資源調査データ解析事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採択された以外の企画提案書においては、調査委員会のメンバーはどうなっているのか。 ・平成19年度からの3カ年事業となっているが、平成20年度以降も、入札で行う考えか。別のところが受注することは可能なのか。 ・技術的に考えるとこの事業を行える事業者はどのくらいいるのか。 <p>〔抽出番号3：平成19年度松くい虫駆除技術高度化調査事業〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松くい虫被害に対する調査研究等は、既にされ尽くされており、事業を行う必要性はないのではないのか。 ・他の事業と比較して、公募期間が短いのはなぜか。手続きを急ぐ必要があったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公正取引委員会の犯罪調査の対象となっている業者の取扱については、閣議決定「公共事業の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する方針」に基づき措置している。 ・企画競争で実施しており、提出された仕様書の積み上げ価格を予定価格としている。当諸経费率等については、積算が可能な他の調査事業と比較しても妥当であり、高いとは考えていない。 ・山間の急峻で狭隘な箇所で行われる治山事業において木材をどのように使用できるかについて調査するものであることから、一般土木事業と差別しているもの。森林土木事業で使用している木製の工法に関する知識がどの程度あるかについて判断する必要があり、評価項目の一つとしているが、特定の業者に絞り込んだものではない。 ・昨年度の調査結果を応募者に対し事前に渡していることから、委員の多少の入れ替えはあるが、昨年度のメンバーを主として企画提案書が提出されている。 ・調査の継続性を確保するため、企画提案を公募する際、事業者に対し、調査報告書を提供しており、別の業者が受注することは可能と考える。 ・数は承知していないが、この事業は、解析技術の開発とモニタリング調査の分析の2つの分野について調査する必要があり、両方の分野について技術を持っているところは限られるのではないかと考える。 ・マツ材線虫病については、未解明な部分も現在相当ある。また、本事業は、東北地方で多い年越し枯れに関する研究成果の取りまとめ、早期診断予測方法の開発等今後の被害対策の推進に資する重要なものである。 ・林野庁の独自の取組として、昨年より、公募期間を段階的に伸ばしてきており、現在は、30日程度としているところであるが、当該事業は、

	意見・質問	回 答
	<p>〔抽出番号4：平成19年度森林整備効率化支援機械開発のうち「木質バイオマス収集・運搬システムの開発」〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再委託先はどこか。 ・事業遂行体制や所要経費に係る評価については、評価者間の違いはそれほど出ないと考えるが評価点に広がりがあるのをどうか考えるか。 ・高性能林業機械の開発は、この調査には含まれないのか。 <p>〔抽出番号5：改善分散処理システムのプログラム改修業務一式、抽出番号6：改善分散処理システムの機器の調達一式〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の改修業務は、どの程度の手間を要する改修であったのか。 ・機器の賃貸借の期間は、旧契約の期間と新契約の期間とダブっていないのか。 ・平成20年4月からのシステム機器は、どうするのか。平成19年度の賃貸借機器を引き続き賃借するのか。 ・入札の結果、別の会社が取れば、機器の入れ替えとなるのか。 ・センチュリー・リージング・システム(株)は、富士通と関連のある会社か。 <p>〔抽出番号7：平成19年度数値基本図等修正業務〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この種の業務を的確に行える業者はどのくらいいると考えるか。 <p>〔抽出番号8：国有林における森林保護のあり方に関する調査〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募が1社となっている理由をどう考えるか。 ・人件費が計上されているが、その内訳が示されていないのはなぜか。 	<p>その過渡期にあったことから、他の事業と比べて応募期間が短いものとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器開発システム開発のためのデータ収集、プロセッサの付加機能の開発及びフォワーダーの開発について計4者に対し再委託を行っている。 ・評価者は事業の主旨に沿っているか等について評価しており、個人的な判断によるものであり多少の差が出ることについては、仕方ないものとする。 ・高性能林業機械の開発については、別途行っている。 ・プログラマーを1100人日程度見込んでいる。 ・旧契約は、新契約を行った時点で解約している。 ・平成20年度の契約については、一般競争入札で行うこととしている。 ・別の業者になればそういうことになる。 ・資本提携等の関連はないと聞いている。 ・去年は3社、今年は昨年と違う2社が応募しており、GISに関係のない業者であっても応募しやすくなっていると考える。 ・応募資格について、特段の制限をしているわけではないが、調査内容が特殊であったためわかりにくかったのではないかと思われる。 ・特に内訳を付けるような様式としていなかったため。内訳については、今後、付けさせる方向で検討したい。

	意見・質問	回 答
	<p>[抽出番号9：地域連携による保護林の保全・管理あり方に関する調査事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本調査委託を早期に発注できなかった理由はなにか。 ・地域連携とあるが、仕様書には地域の指定がないのはなぜか。 <p>[抽出番号10：森林国営保険普及宣伝用ポスター等の印刷・製本・梱包・発送業務、抽出番号11：森林国営保険普及宣伝用ポスター等の印刷・製本・梱包]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業は、どれくらいの頻度で行っているのか。 ・昨年の契約はどうしたのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを毎年変える必然性は何か。 <ul style="list-style-type: none"> ・林業者へアピールするポスター、チラシであることから、林業者の視点を入れる必要があるのではないか。そのためには、応募者の選定委員には、役所だけの人間でないようにした方がよいのではないか。 ・落札率が低いが予定価格が本当によかったのかという問題があるが、どう考えるか。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札手続きについては、応募者が十分準備できる期間を確保すること、積算についてはなるべく内容を詳しくしてもらおうこと、契約時期については、もっと早くできるものについては早くやるべきであること、こうした点を留意し、契約手続きを進められたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容の検討に時間を要したため。 ・本事業という地域連携とは、特定の地域と地域を連携をさせるものではない。 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年は、ポスターの企画から発送までを一連の業務として発注した。 ・ポスターに印刷している支払保険金額等が変更になるので、毎年、変更し、森林所有者へアピールする必要がある。 ・林業者へ普及活動を行う中で、林業者等の意見は聞いており、それを反映させている。 <ul style="list-style-type: none"> ・予定価格については、標準的な単価をもって積算しているが、今後は、実勢価格等も考慮しながら、より精度の高いものに見直していきたい。